

宇宙核物理連絡協議会のこれから

梶野 敏貴(国立天文台/東大/北航大)

【理念】

天文学、宇宙物理学、原子核・素粒子物理学、隕石科学等の広い分野の研究者が交流し、互いに刺激を受け、研究をさら発展させられるような場に。

【若手の活躍】

特に若手の研究者が活躍できる有益な場に。

【組織】

すでにJINA-CEE, ETC*, IBS, BUAA とは交渉を開始しており、宇核連は海外から日本の宇宙核物理を代表する団体として認知されつつある。海外の団体と対等に活動できるように、より実力のある団体に。



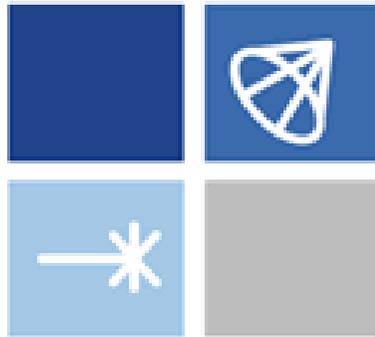
【宇核連の将来はどうあるべきか？】

- 1年半を目途に、組織運営・国内外展開、等の議論をまとめたい。
- できれば「連絡協議会」の名称を変更したい。(何を協議しているのかの印象?)

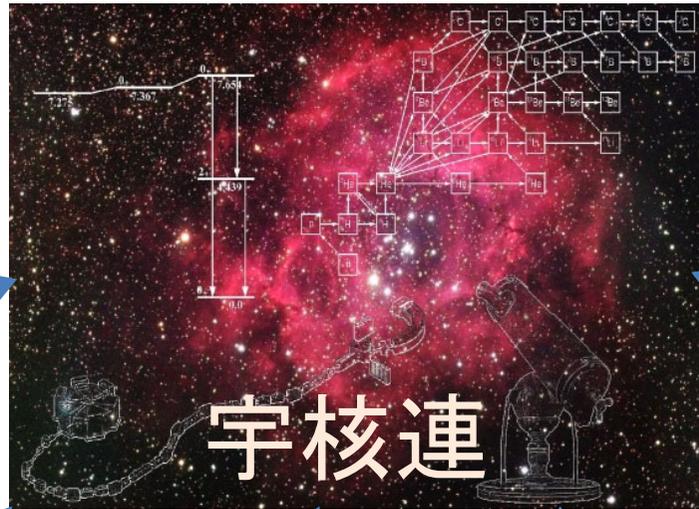
国際学界間の連携



ETC* ヨーロッパの核物理研究センター



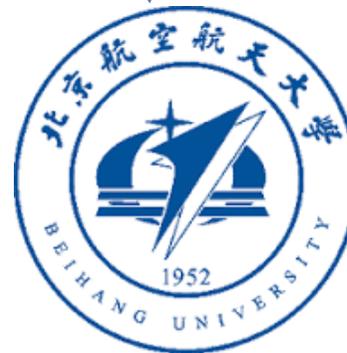
JINA-CEE
アメリカの宇宙核物理の研究組織



日本の宇宙核物理学を代表する組織として



韓国・中国等のアジアの宇宙核物理学コミュニティー



IUPAP認定の国際会議



1988年から、アジア(中国・韓国・日本)の持ちまわりで開催する宇宙核物理学の国際会議

宇核連による賞の新設

天文学会

研究奨励賞

林忠四郎賞

欧文研究報告論文賞

高エネルギー加速器科学奨励会

西川賞

小柴賞:素粒子物理のための実験機器開発

諏訪賞

科研費の審査委員
員に対する表彰

文部科学大臣賞



西川賞

宇核連

1. 常設の審査委員会を作り、論文ベースで審議する
2. 受賞者の名前が入った楯・メダルを授与
3. 受賞資格者は、宇核連会員
4. 毎年、理論1名、実験・観測1名
5. 若手優先(年齢制限?)



写真は量研早川さん提供